

平成26年度の学校関係者評価の結果、以下のとおり報告いたします。

I 重点目標について

富士中では、今年度の重点目標として「教育の質の向上を図り、確かな学力を育成する」「生活指導の充実に努め、豊かな人間性を育む」「地域教育基盤の確立と開かれた学校づくりをとおして、思いやりの心と地域への感謝の心を育成する」の3点を挙げ、それぞれに数値目標を設定しています。今年度、「教育の質の向上を図り、確かな学力を育成する」だけは、教員の休職にともなう子どもたちの戸惑いや、保護者の不安から、昨年度より数値が下がったのではないかと思います。具体的な対策を講じ、結果に結び付けるための更なる努力が必要です。他2点の項目につきましては、ほぼ数値目標をクリアしています。

II 地域とともに子どもを育てる教育について

地域運営学校に指定されて6年目になりました。クリーン作戦、避難所運営訓練、古着回収、グリーンアカデミー、挨拶運動や代沢地区文化スポーツ交流会等の地域活動・ボランティア活動をとおして、地域との交流を図っています。また「富士の学び舎」の教育活動は、小学校5校と富士中とで作られた世田谷9年教育にのっとり、小中連携も計画的に行われています。それらの活動は継続され、安定していますが、引き続き、地域とともに「豊かな人間性を育む」ことを目指した取り組みに期待します。

III 未来を担う子どもを育てる教育について

富士中は学習の「質と量」を常に大切にしています。質としては、国語・数学・英語における「少人数学習熟度別授業」の実施、全教員による授業研究・指導方法の工夫に取り組んでいます。併せて各教科において「ICT活用授業」の推進を図っています。量としては、授業時数の確保に努めています。さらに、放課後学習・夏季補習教室や富士サタスタ、区土曜講習会・朝授業(3年生)等も定着しています。また、職場体験学習は、人と協調しつつ、自立的に社会生活を送るために必要な「人間としての実践力や生きる力を育む」重要な学びの場と考えます。さらに、今年度、富士中では初の「いじめ防止プロジェクト」が1年生を対象に、5回にわたり実施されました。重点目標である「確かな学力を育成する」ことや「豊かな人間性を育む」こと、これら「質と量」を大切にする取り組みは、今後も維持に努めてください。

IV 信頼と誇りの持てる学校づくりについて

学校経営方針に示された目標が、教職員には浸透しているものの、保護者・地域においては学校の運営評価は昨年度より全体的に下がりました。スクールカウンセラーの認知度も少し下がりました。今年度から1年生全員に対し、スクールカウンセラーと面談が実施されました。また「富士中だより」には、毎回、スクールカウンセラーからのお知らせなど、いろいろな情報が詳しく載っています。保護者・地域の皆様には再度お読み返しいただきたいと思います。ゲストティーチャーの講義は毎年工夫されており、進路指導やキャリア教育とともに多面的な成長に欠かせない刺激を与えてくれます。学校運営の今後の取り組みに、より一層の努力をお願いします。

V 教育環境の整備について

昨年度、老朽化した冷水器5機のうち4機が新しくなりましたが、そのうちの1機の冷水器と排水管のつなぎ目から、悪臭がしているという指摘がありました。体育館棟トイレの悪臭対策も含め、改修、改善をお願いします。また、未設置の教室へのエアコン設置など、環境改善を御検討ください。

VI 学校生活全般について

肯定的な意見が生徒・保護者ともに80%程度を維持しているものの、昨年度より、全体的にややマイナスの数値がみられました。生徒のアンケート結果は、生活指導・進路指導については年々プラスの傾向になっています。保護者の結果は、多岐にわたりマイナス数値がありました。アンケートの自由意見欄にも、生徒・保護者から多様な意見が寄せられています。その期待に応えられるように、生徒一人ひとりが落ち着いた環境を生かし、学習や学校生活に取り組み、自己を成長させる活動に全力で臨める、学校づくりをお願いします。

VII 学校評価委員会の総合所見

評価委員会としては、まず先生方の日常の努力に感謝いたします。

- 1 教職員による自己評価報告書を見ると、内容も具体的です。学校が地域の学校として意欲的に取り組んでいることが分かります。
- 2 セーフティー教室や情報モラルの授業に関しては、生徒・保護者・地域とも85%以上の評価を得ています。しかし、定期的に行われている安全指導や避難訓練、地域との連携による避難所運営訓練、災害時対応などの保護者への情報提供、校内現況や衛生面など、学校の安全性に対しての数値が、全体的にマイナスの評価になりました。保護者・地域の方々とともに、安心・安全な学校づくりへ更なる努力と、密な連携をお願いします。
- 3 生徒たちは富士中が好きで誇りをもっており、楽しく学校生活を送っていることが分かりますが、何のために勉強するのか分からなくなる悩みの多い年頃でもあります。今年度は、全体的に数値が下がりました。生徒たちにとって最大の教育環境は教師自身の姿そのものであり、人間としての豊かさや広い分野での教養を求められると思います。学習面でも「質と量の確保」をこれからも続けていただくとともに、生徒たちと向き合う時間の確保にも尽力をお願いしたいと思います。また、各御家庭・地域の皆様におかれましても、手本となる良き家庭環境・地域環境として温かく子どもたちを見守っていただきたいと思います。
- 4 保護者による「さよなら、声かけ当番」は、今年で15年になりました。わが子だけではなく、地域の子どもの様子を知る良い機会となっています。「子どもたちを見守る」この素晴らしい取り組みを、ぜひ継続していただきたいと思います。
- 5 今年度も、夏の部活動合宿は長野県で無事実施することができました。校長先生、顧問、外部指導員、看護師をはじめ、支えてくださいました関係者の皆様に感謝いたします。
- 6 学校を取り巻くいろいろな環境が、年々、整備かつ改善されていることを評価いたします。なお、継続する課題につきましては、引き続き検討をお願いします。

学校関係者評価委員会

委員長	渡邊 真弓
委員	黒木 美枝
委員	須藤 啓子
委員	長塚 千佐子
委員	横光 香里
委員	矢野 明子
委員	丸田 大